

## 報告

## 2012 年度徳島大学全学 FD 推進プログラムの実施報告

日置善郎<sup>1)</sup> 宮田政徳<sup>1)</sup> 川野卓二<sup>1)</sup> 香川順子<sup>1)</sup> 吉田 博<sup>1)</sup> 奈良理恵<sup>2)</sup><sup>1)</sup> 徳島大学大学開放実践センター<sup>2)</sup> 徳島大学学務部教育支援課総務・企画係

(キーワード: 初任者研修, FD ファシリテーター養成研修, 授業コンサルテーション, FD・SD セミナー, 大学教育カンファレンス, ティーチング・ポートフォリオ)

## An annual report 2012 on campus wide Faculty Development programs at The University of Tokushima

Zenro HIOKI<sup>1)</sup>, Masanori MIYATA<sup>1)</sup>, Takuji KAWANO<sup>1)</sup>, Junko KAGAWA<sup>1)</sup>, Hiroshi YOSHIDA<sup>1)</sup> and Rie NARA<sup>2)</sup><sup>1)</sup> Center for University Extension, The University of Tokushima<sup>2)</sup> Student Affairs Department, Curriculum Support Section, The University of Tokushima

(Key words: new faculty seminars, FD facilitator training seminars, individual consultations, education conference, teaching portfolio)

## 1. はじめに

本年度は全学 FD 推進プログラム第 4 期の 2 年目に当る。今年度も 2011 年度に引き続いて、FD ファシリテーター養成研修, 教育力開発基礎プログラム, 授業コンサルテーション・授業研究会, FD・SD セミナー, 大学教育カンファレンス in 徳島を計画通り実施し, さらに 3 月には, 昨年度に引き続き 2 回目となるティーチング・ポートフォリオ作成のためのワークショップ (3 日間) を行った。

各プログラムは, 「初任者研修」としての『教育力開発基礎プログラム及び授業コンサルテーション・授業研究会』, 「学部 FD 実施者向け」の『FD ファシリテーター養成研修』, 「話題提供者を囲む懇談の場」としての『FD・SD セミナー』, 「特色ある教育実践・研究発表の場」としての『大学教育カンファレンス』, 「教員が教育力を高める為に自らの教育活動を振り返る機会」としての『ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ』と位置づけられており, 全体の体系性にも配慮して運営されている。

また, FD ファシリテーター養成研修は SPOD<sup>注1)</sup>に開放され, 徳島大学外からの参加者も受け入れている。同様に, 教育力開発基礎プログラム, FD・SD セミナー, 大学教育カンファレンス in 徳島, ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップも SPOD 開放プログラムとしている。

これらのプログラムは, アンケート結果及びワークショップ等の実施状況から見て, 一定の成果を上げていると判断できる。但し, 教育力開発基礎プログラムおよびその受講者に対する授業コンサルテーション・授業研究会の意義については, 必ずしも対象者全員に浸透しているとは見受けられない点が今年度も反省材料として残った。

この問題については FD 専門委員会においても議論し, 各学部・部局の FD 専門委員からも対象教員に働きかけ, 粘り強く理解を求める努力を続けることとしている。このような改善を通じ, さらに教育担当副学長など大学本部にも協力を仰ぎ, 同プログラムがより有効なものとなるよう今後も努めていきたい。

FD 実施組織の在り方 (将来像) に関しては, 現在, 学長・教育担当副学長のリーダーシップの下, 教育戦略室会議においても全学的 FD 推進をこれまで以上に効果的に推進できる体制を目指して検討が重ねられており, 近く具体案がまとまる見通しとなっている。

以下, 2~7 において, 今年度の各プログラムの実施内容を具体的に述べる。

## 2. FD ファシリテーター養成研修

## a. ねらい

2011 年 2 月の大学教育委員会において「徳島大

学FD推進プログラム第4期計画(2011/4~2014/3)」が決定され、これに基づき年度ごとに「全学FD推進プログラム実施計画」を策定の上、FD活動を推進することとなった。2012年度は第4期計画の二年目にあたり、昨年度の成果と反省に基づき、その内容を改善した上で、2012年度FD推進プログラムの一環として「FDファシリテーター養成研修」(合宿ワークショップ研修)を実施した。

このプログラムの目標は次のとおりである。

- ①FD活動の理念と活動計画を理解する
- ②自校のFDプログラムを開発する
- ③FDリーダーとして活動できる能力と資質を体得する
- ④FDリーダー間の仲間づくり、FDネットワークづくりをする

対象者は、各学部・共通教育センターFD委員会委員及び中堅以上の教員2名以上とした。その他、昨年度からT-SPOD<sup>注2)</sup>参加校及びSPOD加盟校にも参加者を拡大した。プログラム内容は、FDニーズの把握から企画の立案及びプログラム評価の方法までを、レクチャーとワークショップを通じて体得し、FD企画の立案能力を向上させることを目標とした。これまで以上に、明確な目標を設定し、実践的内容をもったプログラムを実施した。

## b. 概要

### ■開催期日

2012年6月9日(土)~6月10日(日)

### ■会場

独立行政法人「国立淡路青少年交流の家」  
(兵庫県南あわじ市阿万塩屋 757-39)

### ■参加者

今年度の参加者は、教員17名(徳島大学12名、SPOD5名)であり、詳細は次の通りである。

#### 【学部FD委員等】

氏名	所属	職名
小山普之	総合科学部	教授
佐藤健二	総合科学部	教授
岩田 貴	医学部	准教授
岩佐幸恵	医学部	准教授

奥田紀久子	医学部	准教授
羽地達次	歯学部	教授
伊藤博夫	歯学部	教授
田中 保	薬学部	准教授
竹内政樹	薬学部	准教授
山中英生	工学部	教授
野田 稔	工学部	准教授
荒木秀夫	全学共通教育センター	教授

#### 【SPOD】

氏名	所属	職名
西村勝志	愛媛大学	教授
山口由等	愛媛大学	准教授
田上隆徳	阿南工業高等専門学校	准教授
福見淳二	阿南工業高等専門学校	准教授
小川佳代	四国大学	准教授

### ■運営メンバー

運営メンバーは、副学長(教育担当)、大学開放実践センター長(FD専門委員会委員長)、FD専門委員会副委員長を含め、教員7名、職員2名、FDマネージャー1名の計10名で運営を行った。

氏名	所属	職名
高石喜久		副学長
日置善郎	大学開放実践センター	センター長
前澤 博	医学部	教授
川野卓二	大学開放実践センター	教授
宮田政徳	大学開放実践センター	准教授
香川順子	大学開放実践センター	准教授
吉田 博	大学開放実践センター	助教
坂東健一	学務部教育支援課	教育支援課長
植谷和也	学務部教育支援課	総務・企画係長
奈良理恵	学務部教育支援課	FDマネージャー

### ■内容

2日間にわたって表1のプログラムを実施した。

## c. 成果と課題

プログラム終了直後にとった、参加者へのアンケート結果を示す。以下に、各問いに対する自由記述の回答例を挙げる。

表 1 2012 年度 FD ファシリテーター養成研修日程  
第 1 日 (2012 年 6 月 9 日・土曜日)

8:40 徳島大学出発

9:40 国立淡路青少年交流の家到着

時刻	内 容	講師・担当者	場 所
9:40-10:00	・記念写真撮影, 部屋の確認	研修事務局	特別第 1 研修室
10:00-10:30	(1)オリエンテーション ・FD への期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	副学長 (教育担当) 高石喜久 FD 専門委員会委員長 日置善郎 (進行) 川野卓二	特別第 1 研修室
10:30-11:40	(2)アイスブレイク & World Café (FD ニーズや 課題の共有)	吉田 博	特別第 1 研修室
11:40-12:40	昼食(11:50~12:20) 休憩		食 堂
12:40-13:20	(3)講義: FD 概論 (定義と種類)	宮田政徳	特別第 1 研修室
13:20-13:50	(4)講義: 部局 FD と分野別 FD の紹介 ①: 工学部 FD ②: 看護 FD	山中英生 小川佳代, 岩佐幸恵	特別第 1 研修室
13:50-14:00	休憩		
14:00-14:30	(5)ワーク①: FD ニーズの把握	吉田 博	特別第 1 研修室
14:30-17:50	(6)講義&ワーク②: FD プログラムの立案 (7)講義&ワーク③: 「FD 研修実施要項」作成と 「FD プログラム」作成	香川順子 他スタッフ全員	特別第 1 研修室
17:50-18:30	夕食 (18:00~18:30) 休憩		食 堂
18:30-19:30	自由時間		
19:30-20:30	(8)FD 交流会	吉田 博	食 堂
20:30-22:30	風呂他 (入浴時間 21:30~22:00)		浴 室
22:30	就寝及び消灯		

第 2 日 (2012 年 6 月 10 日・日曜日)

時刻	内 容	講師・担当者	場 所
7:00-7:20	朝のつどい		つどいの広場
7:20-8:30	朝食 (7:45~8:10) 掃除 (点検・退室)		食堂・宿泊室
8:30-9:10	(9)講義&ワーク④: FD プログラム評価シート作成	川野卓二	特別第 1 研修室
9:10-10:20	(10)ワーク⑤: FD プログラム作成の仕上げ	スタッフ全員	特別第 1 研修室
10:20-10:30	休憩		
10:30-12:10	(11)ワーク⑥: FD プログラム発表 (質疑・応答とコメント)	FD 専門委員会副委員長 前澤 博 川野卓二, 吉田 博	特別第 1 研修室
12:10-13:00	昼食 (12:20~12:50) 休憩		食 堂
13:00-14:00	(12)プログラムのまとめ ・参加者からのワークの振り返り ・副学長からの講評 ・FD 専門委員会副委員長からの参加証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	副学長 (教育担当) 高石喜久 FD 専門委員会副委員長 前澤 博 FD 専門委員会委員長 日置善郎 (進行) 宮田政徳	特別第 1 研修室
14:10	バス発車 - 15:10 常三島キャンパス着		

(1) 今回の FD ファシリテーター養成研修に参加するにあたってあなたの自己目標はなんですか？身につけたいスキル・知識は何ですか。

- ・ 企画力。
- ・ ファシリテーターとしてあるべき姿とは？を学ぶ。
- ・ 他部局の職員との交流を深める。
- ・ 懇親のつもりで来ました。今は特にないのですが、この研修内で見つけたいと思います。
- ・ 研修計画の立て方。
- ・ 自分で FD 研修を実施できるだけの知識と技術を身につける。
- ・ 他機関で具体的にどのようなテーマの研修を行っているか等の情報を収集することと、それを高専でどう生かせるのか。
- ・ 学生支援に対する様々な意見・考え方を知る。
- ・ 実効性のある FD プログラムの開発のためのスキル。
- ・ 学部の FD 計画をより良いものにするのと FD への参加者を増やすための工夫などアイデアが欲しい。
- ・ 参加者のモチベーションを上げる方法、魅力ある FD 研修にする方法について考えたい。
- ・ 自学部の FD 活動の活性化に力になれるよう、ファシリテーションスキルをひとつでも多く身につけたい。
- ・ 事務処理速度の UP。
- ・ 有効な FD の立案・実施。
- ・ FD プログラム立案にあたっての、ニーズの把握方法と立案のコツを学ぶこと。
- ・ 人を巻き込む力を修得できればと思っております。
- ・ 教育に熱心でない教員にどのようにしたら教育に関心を持つか勉強したい。
- ・ 学科の新入生向け教育のための FD プログラムの開発。
- ・ FD の意義、実質化。

(2) 今回の研修に参加して身に付いたと思われることは何ですか。

- ・ FD プログラム評価, 学習成果にも応用できる。

・ 他学部の現状ととりくみが大変よくわかりました。教育（授業）をいかにわかりやすくするか、何かツールを使用するか参考になりました。

- ・ FD の意義と教員の問題点を確認できたこと。
- ・ FD への取り組みの内容を知ることができました。
- ・ 具体的な研修を行う上での方法が分かり大変勉強になりました。
- ・ World Café 等のグループワークの方法。
- ・ FD に対する様々な考え方。
- ・ 評価の視点, 整理方法, 5 フェイズの視点は新鮮でした。⇒この FD 講座の評価もよろしくお願ひします。
- ・ FD 活動を計画する際に評価の視点が必要なことが分かった。
- ・ FD 研修を実践していくためのモチベーションアップにつながった。
- ・ 無理やりでも企画を形にするスキル。
- ・ FD の意義, 必要性を理解できること。
- ・ プログラムの組み立て方, 評価方法。
- ・ FD の根拠, 理論がわかった。
- ・ プログラムの作成手順および評価を前提とすることの重要性を理解できたこと。
- ・ World Café は新たな概念であったが, 説明不足もあった。FD プログラム作成は身についたが, 作成は困難であった。
- ・ FD プログラムの組み立て方について, 基本的なところは学べたと思います。プログラムの評価計画は初めて見たので, 中身は消化不良でした。持ち帰って勉強します。
- ・ FD の計画のたて方, FD の評価の仕方, 部局によって (参加者) によって FD への対応のし方の差。

(3) 参加して良かったと思われる点は何ですか。

- ・ 雑談で, 特に良い情報を得られた。
- ・ 人脈形成, 皆様の熱意, 理論構築が勉強になりました。また発着想眼点の豊かさには驚きました。
- ・ 宿泊研修のメリット (効果) を実感できたこと。
- ・ 懇親が図れて, FD そのものの内容を知ることができて, 計画的にワークプロダクトの作り



方、またプロセスがよく練れていて、プロジェクト作りの参考になった。

- ・各大学学部のような問題や対応が聴けて良かったです。
- ・他機関・部局の取り組み等の情報が得られた。
- ・内部で検討していたプログラムを体系化し、また多くの意見をもらえる機会となったこと。また、町づくり WS の手法が多くとり入れられていて大変興味深い体験でした。
- ・具体的に学部の FD 活動の計画の立案ができた。
- ・良い人間関係のとり方をうまく調整してチームワークの雰囲気をつくることによって先生方の協力が得られ、より達成感の得られる研修になることが実感できた。
- ・他の部局の皆さんとも話す機会があり、抱えている問題を共有できたこと。
- ・他部局の先生たちの問題意識など、貴重な情報を得ることができた。日頃溜まっていた(教育に関して)言いたいことを言うことで多少発散させることができた。
- ・FD 企画立案のノウハウが分かった点。各大学、部局の取り組みが分かった点。
- ・他大学、他部局、他教員の FD に対する着眼点を知ることができた。また、FD プログラムのアイデアを知ることができた。
- ・温かなスタッフさんによる指導がよかった。丁寧なものでした。(理解しやすかった。)
- ・協同で作業できたことはよかった。同じ部局の人とも討論できたことは新鮮であった。
- ・機材の使い方など参考になりました。他大学等の状況についてお互いに情報交換する機会という点も、良かったと思います。
- ・全学の FD 取組の実態が少し分かった。仲間作り。

(4) 研修内容について改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・時間に余裕を、or 企画を縮小したら(成果が高まるのでは)。
- ・天候にも恵まれ、大変有意義な研修でした。準備から運営全てに大変入念にいただいた皆

様、大変お世話になりました。非常に快適でした。

- ・FD の関心のない教員に参加してもらいたいと思う。
- ・ここに集まっていらっしゃる方々は、FD のことをよくわかっていらっしゃる方々ばかりでした。本当に FD の必要な先生もいらっしゃると思います。強制的に順番に全員参加としては如何、と思います。
- ・アメニティーの高い研修会場と宿泊施設。
- ・参加する機関がもう少し数多くあると良かったと思います。
- ・多少“プログラム”の説明がワークショップに偏っているくらいが感じられました。また、対話的手法以外の方法のプログラムも出たので、WS のこまかな技法よりは、コンセプトづくりに力を入れた方がよいと思います。それから、FD 目標の課題と、FD プログラムが繋がっていなかったのも、FD プログラムをたてる部局における教育上の課題をもう少しつっこんで(原因を含めて)分析するフェーズがあった方がよいと感じました。また、各フェーズで部局間の共有があった方がいいです。あと、振かえりの会 自己目標に対するコメントを書いて、共有した方がよいと思います。
- ・事前の準備として具体的にもう少し用意できていればよりよかったと思う。
- ・作業用の机がもう少し広ければ・・・。
- ・やるべき事が見えないままワークに入ってしまった部分があり求めている成果物をもう少し分かりやすくしていただけると良かった。
- ・FD に関する技法(テクニカルな部分)をもう少し丁寧に教授していただければと思います。
- ・FD に人が集まらない理由の 1 つは、FD が十分に企画立案されていないことによるのかもしれない、と思いました。その点、今回のようなリーダー研修の受講者が増えれば、より魅力的な企画が作られ、参加者が増えると思われた。大変良い企画でした。ありがとうございました。

- ・準備は十分にやっていたと思うが、講義、ワーク等、ただ形だけでしていた感がぬぐえない。講師の方の FD も必要!
- ・一日目午後の進行はばたばたしていた感じだ。ワンステップずついいねいに進めていったら良くなると思います。
- ・この研修に関してではないが、学部長、学科長レベルの FD 研修も必要では。

参加者アンケートの他項目の結果では、プログラムに関しての設問「研修は自分の業務に生かせる内容だった」で、そう思うが 42%、どちらかといえばそう思うが 53%であった。また研修の成果に関しての設問「自分に必要な知識やスキルを身につけることができた」で、そう思うが 16%、どちらかといえばそう思うが 74%であった。さらに「受講したことによって FD の取り組みが改善されると思う」で、そう思うが 26%、どちらかといえばそう思うが 63%であった。

以上より、この研修で各大学・学部・学科で FD を企画・実施する立場の参加者に対して、所期の目的を達成することができたと思われる。このプログラムのワークの中で、FD プログラムを作成することが FD ファシリテーターとしての自覚につながり、FD 担当者にとって有意義なワークになったと考えられる。来年度からの研修プログラムについてもアンケート結果を取り入れて可能な限り手直ししたい。

今年度の研修最後に発表された各大学の部局 FD プログラムを見ると、学部特有の問題（やる気のない学生や障害を持った学生）に対処するような適切な内容と構成をもったものが多く、部局 FD を実施できる人材が確実に育って来ていることが分かる。次年度以降も、このプログラムの効果を検証しつつ、FD ファシリテーター養成の場をより実質的なものにして行かなければならないだろう。

### 3. 教育力開発基礎プログラム

実質的な FD の取り組みを進めるため、徳島大学の教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修である「教育力

開発基礎プログラム」を実施した。本節では、その研修内容について報告する。

#### a. ねらい

本研修は、大きく分けて授業設計と教育技術について学ぶものである。主な活動内容は、シラバスと授業計画の作成、模擬授業である。授業の目的、到達目標の設定、授業実施の留意点、評価方法等に関する講義やワークを通して、参加者が自身の授業について考え、振り返ることにより、実践的な教育力の向上を目指している。本プログラムの目標は以下の 4 つである。

- ①FD 活動の理念、活動計画を理解する
- ②授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する
- ③授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする
- ④FD 参加者同士の仲間づくりをする

#### b. 概要

##### ■開催期日

2012 年 8 月 31 日 (金) ~ 2012 年 9 月 1 日 (土)

##### ■会場

共通教育 6 号館 201 (大学開放実践センター2階)

##### ■対象者

本研修は学外 (SPOD) へ開放しているため、学内のみではなく、学外の教員も対象としている。

学内の対象者は、講師または准教授昇任後 2 年以内の教員を中心とし、「教育力開発基礎プログラム」欠席者、推薦を受けた者 (助教及び教授等) も対象としている。ただし、所属が教育系以外のセンター等、病院の場合、及びプロジェクト採用等の場合は除いた。また、次に該当する場合は参加を免除した。①学外で同様の研修を受けた場合、②担当する授業がない場合、③診療業務を主に担当している場合。また、希望者も受け付けている。

学外の対象者については、徳島県の大学・短大・高専 (T-SPOD) 及びその他 SPOD 加盟校の教員としている。

##### ■参加者

今年度の参加者は、教員 11 名 (徳島大学 8 名、

T-SPOD 3 名) であり, 詳細は次の通りである。

【学内教員】

氏名	所属	職名
王冷然	総合科学部	准教授
服部武文	総合科学部	准教授
笹尾佳代	総合科学部	准教授
松嶋一成	総合科学部	講師
折戸玲子	総合科学部	講師
竹林桂子	医学部	講師
志内哲也	医学部	講師
寺西研二	工学部	准教授

【学外教員 (T-SPOD)】

氏名	所属	職名
山田耕太郎	阿南工業高等専門学校	講師
城本春佳	阿南工業高等専門学校	助教
一ノ瀬元喜	阿南工業高等専門学校	助教

■運営メンバー

運営メンバーは, 副学長 (教育担当), 大学開放実践センター長 (FD 専門委員会委員長), FD 専門委員会委員を含め, 教員 13 名, 職員 1 名, FD マネージャー 1 名の計 15 名で運営を行った。

氏名	所属	職名
高石喜久		副学長
日置善郎	大学開放実践センター	センター長
小山晋之	総合科学部	教授
田中秀治	薬学部	教授
上田哲史	情報化推進センター	教授
堤和博	全学共通教育センター	准教授
岩佐幸恵	医学部	准教授
金西計英	大学開放実践センター	教授
原田健太郎	評価情報分析センター	助教
川野卓二	大学開放実践センター	教授
宮田政徳	大学開放実践センター	准教授
香川順子	大学開放実践センター	准教授
吉田博	大学開放実践センター	助教
原田直樹	学務部教育支援課	総務・企画係長
奈良理恵	学務部教育支援課	FD マネージャー

■内容

2 日間にわたり, 表 2 のプログラムを実施した。

■全体の流れ

【1 日目】

「(1) オリエンテーション」では, 高石副学長より「大学教育, FD・SD への期待」について, 日置 FD 専門委員会委員長より「研修のねらいと意義」についてお話を頂いた。

「(2) アイスブレイク」では, 参加者間の交流と自己紹介のため, 「忘れられない授業」をテーマに行われた。自己紹介カードを用い, 個人の授業, 研究を表すキーワード, 性格等の特徴の他, 学生時代に受けた授業について, 良い授業, 悪い授業を想起し, 情報共有を行った。

「(3) ワークショップ 質の高い授業を目指すためには?」では, 自分が目指したい理想の授業を明確にすること, 学生が能動的に深く学ぶために授業の中で注意すべきこと, 現在の自分の授業における課題を明確にすることを重視して行った。「意義ある学習 (Significant Learning)」や「深い学び (Deep Approach)」に関する理論を簡単に紹介し, 自分にとって意味のあった学習経験から, 理想の授業を明確にするためのワークを行い, 各教員の経験について参加者間で共有した。

「(4) 講義・ワーク より良い授業実施のために」では, 授業設計と評価に関する講義を行った。具体的には高等教育の状況や「教育実践を記録・顕在化し, それを教師同士が分かち, 互いに吟味しあい, 互いの教授・学習に関する実践的知識を積み重ねあう試み」として, SoTL (Scholarship of Teaching and Learning) <sup>注3)</sup> の考え方が紹介され, 授業設計のための理論については, 「意義ある学習 (Significant Learning)」の 12 のステップが紹介された。その後, 学習目標, 評価方法, 学習活動についてのワークを行い, 個人の授業における授業設計と評価に関わる部分を再考した。次に, 参加者があらかじめ準備したシラバス, 授業計画書の検討・修正を行った。シラバス作成のポイントや授業計画書の書き方について講義を行い, その後, 参加者間でシラバスを交換して相互にチェックを行った。最後に, 模擬授業の説明を行った。

「(5) グループワーク 模擬授業・授業検討会」では, グループごとに各部屋に分かれて, 参加者全員が模擬授業を実施した。各グループには FD



専門委員会の教員が司会者として、大学開放実践センターの教員がコンサルタントとして入り、支援を行った。模擬授業の内容については、各自の専門科目の授業に関する、なるべく基礎的な内容を取り上げて担当科目を選び（あるいは想定し）、研修前に事前準備を行ったうえで実施された。実際に行われた授業は、今年度よりコンサルタントが撮影して、その場ですぐに視聴しながらフィードバックを行う形式で行った。参加者は学生の立場から授業に参加した後、授業を検討するための要点チェックリストに基づき授業の検討を行った。この他にも良かった点、より良くするための提案について自由記述形式で用紙に記入し、模擬授業実施者へのフィードバックを行った。授業検討会は、このように参加者間がお互いに良い点、改善点について話し合いながら評価し合う活動として行われた。全員が模擬授業を終えた段階で、2 日目に全体で発表する代表者を選抜した。そのほか、司会、他グループの模擬授業代表者へのコメンテーター、タイムキーパーの役割を決定し、参加者が授業研究会を進行する役割を担う形式とした。

## [2 日目]

「(6) 模擬授業実施」では、各グループにて選ばれた代表者が模擬授業を実施した。各班の進行については、シラバスや授業計画など授業紹介が 5 分、模擬授業実施が 15 分、コメント・質疑応答に 5 分の計 30 分をとって進めた。また、参加者やスタッフは、自由記述形式のコメントシートに良かった点、より良くするための提案についてコメントを書き、発表者へのフィードバックを行った。

「(7) プログラムのまとめ」では、研修のまとめ、高石副学長による講評、今後の全学 FD 推進プログラムの紹介と日置 FD 専門委員会委員長によるおわりの言葉によって締めくくられた。

## c. 成果と課題

### ■プログラムの到達目標に関する成果と課題

#### [到達目標①:FD 活動の理念、活動計画を理解する]

全学 FD 活動に関する理念、各種活動については、(1) オリエンテーションでの高石副学長による「徳島大学の教育と FD への期待」と、日置 FD 専門委員会委員長による「研修のねらいと意義」

において、全学的な教育方針、全学 FD 推進プログラムの目的とその意義、本研修の目的、意義について説明があった。また「(7) プログラムのまとめ」において、授業コンサルテーション・授業研究会、ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップについての説明もあった。これらの活動より、参加教員は徳島大学の全学 FD 活動について概ね理解したと思われる。アンケートに「FD の意義、目的を知れてよかった」とあるように、この研修によって理解が促進された事が窺える。

#### [到達目標②: 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する]

授業計画、評価の方法については、Significant Learning (意義ある学習) を参考にしたワークを通して、自分の授業について具体的に考えたことにより概ね理解したと思われる。事前準備においては、シラバス、授業計画の作成のサンプルに、FD ハンドブック参照のポイントを示しつつ作成を促したため、参加者の理解は昨年より進んだようである。また、研修中にそのポイントを振り返るためのチェックシートを利用し、十分な時間を設けたことで、計画、評価の方法を伝えるのみではなく、日頃のシラバス作成の活動を振り返るための視点を意識化する機会を提供することができた。この点については、アンケートからも読み取れる。

#### [到達目標③: 授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする]

模擬授業の計画と準備、模擬授業の実践を通して、評価視点のポイントを示しながら、相互評価を行うことで、その理解が促されたと考える。模擬授業・授業検討会は、授業を実践するために必要な評価視点(枠組み)を伝えた上で、相互評価を行う機会を設けたものであり、体験的に授業研究の方法について理解できる機会であったと考える。また今年度より、映像フィードバックを用いて支援スタッフが本格的に関わることで、「授業コンサルテーション・授業研究会」への継続を意識した形で授業検討会を実施した。その方法を体験する機会を設けたことにより、参加者への気づきを促し、印象に残りやすい体験になったと考える。



**[到達目標④：FD 参加者同士の仲間づくりができる]**

研修全体を通して、できる限り相互交流の機会を設け、お互いに研鑽し合う関係性の構築を意識した研修を実施した。具体的には、アイスブレイクで、お互いの授業・研究等について情報共有する機会を設けたこと、ワークショップにおいて、理想の授業について話し合う機会を設け、授業に対する考え方を相互に理解するための機会を設定した。また、模擬授業・授業検討会と 2 日目の模擬授業においては、お互いの授業から学びつつ、相互に高め合う相互研鑽の関係性構築を促す機会とした。アンケートの「新たに人的なつながりをつくることができた」という質問に対して、全員が肯定的に評価しており、関係性の構築という視点からは、本研修の成果が確認されたと考えてよいだろう。しかし今回は、グループごとの関わりが多くなってしまい、全体的に様々な教員との交流をコーディネートすべきであった。

**■今後の課題**

事後アンケートの結果から「研修は全体的に満足できるものだった」、「研修は自分の業務に活かせる内容だった」、「受講したことによって教育への取り組み方が改善されると思う」という質問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的に評価した教員は全員であった。これらの結果から、多くの教員にとって、よい学びの機会となり、自身の授業改善への契機となっていることが伺える。特に、今年度から取り入れた画像を用いたフィードバックと支援スタッフの本格的な関わりにより、参加者がこれまで得られなかった気づきを促すことができたと考えられる。

また、「研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した」という教員は 3 割を切っており、半数近くが能力開発の必要性を感じている状態ではなかったにも関わらず、授業改善に活かせる内容であった事を考えると、参加者にとってこの研修への参加の意義があったと推察できる。

研修会場の快適さについては、全員が肯定的に評価しており、特に大きな問題はなかったようであるが、設備面からみると 9%の教員が十分では

なかったと評価していた。自由記述から、グループ別に分かれて模擬授業を実施する教室が、実際の授業の想定と異なっていたことにより、やりにくさを感じている教員もいた。今回はこの点を改善すべきである。

その他、「講師の用意した教材はわかりやすかった」について肯定的に評価した教員は全員であり、教材作成については、今回の教材をふまえた上で、よりよい教材へと改善を継続していく必要がある。今回は FD ハンドブックを参照する形でガイドを作成し、事前準備の徹底を行ったこと、昨年度の研修の課題から説明方法や資料を改善したことにより、ハンドブックへのアクセスが高まり、それが高い評価へつながったと考えられる。今後は、現在の FD ハンドブックと研修の資料を合わせ、テキストの改訂へつなげていく必要がある。

**d. 初任者研修アンケート結果**

最後に、プログラム終了直後に実施したアンケート結果について、自由記述の回答を示す。

(1) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。

- ・ 授業計画，資料作成，学生との交流の仕方。
- ・ 学生とのコミュニケーションを大切にしながら授業を行う事。
- ・ 話術，授業中でのコミュニケーション法。
- ・ 学生とのコミュニケーションの中で授業を展開する技術，学生が“学生”となるよう（学ぶ意欲を持つよう）触発すること。
- ・ 説明のメリハリ。内容の調整。時間の配分。
- ・ 学生との接し方・距離感，メリハリのつけ方
- ・ わかりやすい授業。
- ・ 授業中の学生のコントロール方法（集中させたいとき，リラックスさせたいときなど）。
- ・ 英語教育に関する知識。

(2) 参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ シラバス作成から授業計画の立て方まで細かくまとめられていた冊子は良かった。今まで自己流でやっていた所の改善点が浮きぼりになった。自分の授業を他の先生方に見て頂き、コメントをもらえたところは良かった。他人

表 2 2012 年度教育力開発基礎プログラム

第 1 日 (2012 年 8 月 31 日・金曜日)

時刻	内 容	講師・担当者
9:00- 9:30	・受付 (共通教育 6 号館 201)	—
9:30-10:00	(1)オリエンテーション ・大学教育, FD・SD への期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	川野卓二 (進行) 副学長 (教育担当) 高石喜久 FD 専門委員会委員長 日置善郎
10:00-10:30	(2)アイスブレイク「忘れられない授業」 ・参加者自己紹介・交流	吉田 博
10:30-11:40	(3)WS「質の高い授業を目指すためには？」 理想の授業と現状から授業の課題を探る	香川順子
11:40-12:40	休憩 各自で昼食	
12:40-14:45	(4)講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 ・授業設計と評価 ・シラバス, 授業計画書の検討・修正 ・模擬授業説明	川野卓二 宮田政徳 香川順子
14:45-15:00	休憩	
15:00-17:40	(5)グループワーク「模擬授業・授業検討会」 (3 人グループで実施) ・模擬授業の実施 (撮影) 一人 15 分以内 ・映像を基に検討会 一人 20 分 →チェックリストを基によかった点, 改善 点等を検討する ・2 日目の模擬授業代表者の選出と役割分担を決定	各班司会: FD 委員 ワーク支援: スタッフ全員

第 2 日 (2012 年 9 月 1 日・土曜日)

時刻	内 容	講師・担当者
9:30-10:00	・集合, 模擬授業準備 (教材印刷が必要な場合は 9:00 集合)	スタッフ
10:00-12:15	(6)模擬授業実施 (グループ代表による模擬授業) A 班 (10:00-10:30), B 班 (10:30-11:00) 休憩 (15 分) C 班 (11:15-11:45), D 班 (11:45-12:15)	司会: 吉田 博 コメンター: FD 委員 支援: スタッフ全員
12:15-13:15	休憩 昼食(交流会) *全員参加	
13:15-14:15	(7)プログラムのまとめ ・模擬授業のまとめ ・講評 ・授業コンサルテーション, ティーチング・ポートフォリオについて ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	川野卓二 副学長 (教育担当) 高石喜久 FD 専門委員会委員長 日置善郎

の授業を見て、自分の授業にとり入れられる所など、学ぶべき所が多かった。

- ・同じ大学の教員でも領域がちがうと交流がないので、色々な科目、色々な先生がおられることがわかり、視野が広がったと思います。自分の領域を知ってもらうよい機会にもなりました。
- ・FDの意義、目的を知れてよかった。
- ・授業する自分を客観的に見る機会ができ、建設的な意見をもらう事ができた。
- ・他の先生方の授業を見ることができた。
- ・自分の不足を知ることができたこと、他人の講義に触れることができたこと、アドバイスをいただいたこと。
- ・改めて自分の授業を見直すいいきっかけになった。
- ・自分に足りない部分を確認できた。
- ・そもそも教育の重要性について認識できた。教育内容の質的向上を促す要因をより実践的なレベルで指導して頂けたのが良かった。
- ・自身の授業をふりかえり、良い授業は参考にすることが出来た。
- ・他の先生の授業のやり方が大変参考になった。学生の立場でも模擬授業に参加したことで、つまづいたり、困ったりするポイントが分かったような気がした
- ・シラバスの作り方など、これまであまり教わる機会がなかったことを、事前準備の段階で詳しい資料によって学ぶことができてよかった。他の参加者の模擬授業も参考になった。

(3) 研修をよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・模擬授業では、実際の授業にできるだけ近い設備を用意した方が良いと思う。黒板と小さいホワイトボード、教卓の有無など、授業の進行に大きく影響すると思う。
- ・他のグループの方との交流ができなかったのので、アイスブレイクは全体でやってもよかったのかもしれませんが。授業コメントシートは記名式の方がよいと思います。
- ・個人的には、浅く広くにした方がよいと思う。参加した人に次のステップ（例えばコンサル

テーション）で要求するよりは幅広い人に来てもらった方がよい。

- ・授業内容を、自分が最も工夫していると思う点の報告にすると、見ている方（参加者）がより学べると思う
- ・新人教員間の交流時間をもうけてほしい。新人教員の悩みを聞いてほしい。模擬講義を見させてほしい。
- ・今回くらいの人数が丁度いいのではないのでしょうか。特に、模擬授業のことを考えると、これより増えると、効果が薄まるように思います。
- ・全員強制参加を徹底する。
- ・講義より模擬授業の時間を多くとる（多くの参加者に模擬授業をやってもらう）方が良い（そういう機会はめったにないので）

(4) その他、お気づきの点があればご記入下さい。

- ・湯茶等ご準備いただき、ありがたく思いました。お世話になりました。
- ・上記に関連するが、FDに無関心どころか、「参加するのか」と思われがちのところもあります。正直、半ば強制のように感じられたわりには、うまくのがれた方もいらっしゃるようです。私は参加してよかったですが、私はこの位にさせていただいて、底上げをはかった方がよいと思います。
- ・pptで講義を行う人向けに、スライドの作成に関する指導も（少しだけでも）あると良いと思う。
- ・授業期間中の方が良かった。（夏は長期出張や研究に没頭できる貴重な時期のため）
- ・参加者が少ない。
- ・スタッフの方がとても丁寧に対応してくださり、前向きな気持ちで研修に臨むことができました。

#### 4. 授業コンサルテーション

##### a. 授業コンサルテーションの目的

徳島大学では、全学FD推進プログラムの一環として、2005年度より、毎年「授業コンサルテーション・授業研究会」という名称で実施している。授業コンサルテーションでは、個々の教員の実情

に沿った具体的で日常的な FD をめざしており、その目的は、授業の把握、授業の改善、参加者間での授業技術の共有化である。対象は「教育力開発基礎プログラム」受講者を主な対象としているが、希望者も受け付けている。

#### b. 授業コンサルテーションの流れ

授業コンサルテーションは、次の流れで進めている。

授業への参観・映像撮影・学生アンケートの実施  
↓  
授業記録作成・学生アンケート整理・映像編集  
↓  
授業研究会（発表・映像視聴・議論）

まず、センター教員と撮影担当者が、各教員の授業を参観し、簡単なメモ(授業内容のまとめ、時間経過、特筆すべき発言や出来事)をとりつつ、授業を映像に収める。授業終了時には、学生へのアンケート(その日の授業で何を学んだかということ、授業に関する先生へのメッセージについて)を実施する。さらに時間があれば、教員に授業に関する簡単なインタビューを行う。

その後、授業映像をもとに、センター教員が詳細な授業記録を作成し、それと平行して授業の主要部分の映像を編集する。授業記録は、時系列に沿って授業の展開過程(まとめ、何が話されているか、学生との相互作用、板書など)がわかるように作成した。編集映像は授業の展開が分かるように、各まとめから数分間の映像を抽出し、合計で 20 分強になるようまとめた。さらに、授業より数週間後、授業記録や編集映像、学生アンケートの結果をもとにした「授業研究会」を開催する。そこでは、様々な部局からの参加者を交えて、授業改善の知恵を出し合い、また授業からいろいろなことを学び合うことを目指した。

#### c. 授業研究会

授業研究会は以下のような手順で進めた。所要時間は全部で 1 時間 20 分ほどである。これも昨年度と同様の手順である。

簡単な説明(授業全体のねらい/この日のねらいなど:対象者の先生より 5 分)

↓  
授業映像視聴  
↓  
授業参観者報告・学生アンケートから読めること(大学開放実践センター教員より 5~10 分)  
↓  
授業者解説(当日の様子/授業でうまくいっている点・お困りの点など各論:対象者の教員より 5~10 分)  
↓  
自由討論(あるいは課題討論 10~15 分)

2012 年度は 13 名の教員に対して授業コンサルテーションを行った。

また、2009 年 12 月より学部 FD 委員会との共催で、対象教員と同じ部局に所属する学部 FD 委員が常時授業研究会へ参加する形式となった。学部 FD 委員会との共催により、学部との連携を行いつつ、専門的な立場から教員が参加する形となり、専門的な視点からも議論する体制を継続している。

授業研究会では大学開放実践センター教員のほか、対象教員が所属する部局等からの参加がみられた。なお、授業研究会は、授業研究インテリジェントラボでの開催を主としていたが、2011 年度より、対象となる教員の所属部局での開催を推進し、同領域の教員が参加しやすい環境づくりを目指している。2012 年度の授業研究会は次の通り実施された。

#### ●第 1 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時:2012 年 6 月 15 日(金) 13:00~14:20
- ・開催場所:授業研究インテリジェントラボ(大学開放実践センター3 階)
- ・授業担当者:山本 孝 准教授(大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)
- ・授業題目:『基礎化学 i・化学結合論』
- ・共催:総合科学部 FD 委員会
- ・内容:この授業では、板書とテキストを用い、学生が自ら学びとっていくことを重視した授業



が行われていた。日常の授業におけるテスト配布や試験問題の量を多くするなど、学生自身が自ら理解を確認するための機会を作り進められていた。

自由討論では、関連の科目数が少ない上、理解するまでに時間が必要な学生が増える中で、教えるべき内容をこなしていくことが難しい状況であることが話題に上った。授業の中で、いかに学生の学習を促すか、また授業外学習を促すために何ができるかということを知恵を出し合いながら解決していく必要があることが話された。その他、授業の質を落さずに、いかに学生に学んでもらうか、学生のモチベーションを促す方法等について意見交換が行われた。例えば、テストで学生の理解を確認する方法や、講義の前に学ぶ上で重要な問いを提示し、最後にリフレクションを行う方法、学生の興味を引き出すために、教員の経験を少し話したり、簡単な問いかけをしたりする方法、また問いかけやすいように座席を前の方に座るよう指示するなど、具体的なアイデアも共有された。

●第 2 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時：2012 年 6 月 26 日 (火) 16:30~17:50
- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3 階)
- ・授業担当者：佐藤陽一 准教授 (大学院ヘルス・バイオ・サイエンス研究部)
- ・授業題目：『医薬品経済学』
- ・共催：薬学部 FD 委員会
- ・内容：この授業では、薬の効果に関する検定方法を適切に選択し、分析できるように、薬品のデータを用いて解説がなされていた。具体例を提示しながら、学生の理解を促す工夫をした授業であった。

自由討論では、薬学部の学生が大人しく、授業中の反応があまりないため、問いかけによる授業中の理解の確認が難しい点が話題に上った。試験をすると、成績は良いので理解はしていることが分かるが、授業中に確認しにくい状況をどうするかについて話された。授業中に演習問題による理解の確認をすると、試験問題と重な

ってしまうためやりにくい事、例題集が無い場合、演習問題を教員が作成していくことも大変な作業である事などが参加教員の間で共有された。その他、クリッカーを用いて問いかけに答えてもらおうと理解度も把握できるのではないかという意見も出された。

●第 3 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時：2012 年 7 月 10 日 (火) 16:30~17:50
- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3 階)
- ・授業担当者：河口洋一 准教授 (大学院ソシオテクノサイエンス研究部)
- ・授業題目：『環境生態学』
- ・共催：工学部 FD 委員会
- ・内容：この授業では、学生の授業に対する興味・関心や理解を促すため、図の利用、身近な例えによる解説、学生への質問を多用するなど、分かりやすい授業を意識して取り組まれている。また、毎回授業に関連するテーマに基づいて、学生が興味のある新聞記事を調べ、それを発表するという機会も設定されていた。

自由討論では、学生がどのくらい授業内容を理解しているかを把握する方法として、授業の中で小テストを行い、学生の理解度を把握するとともに、次の授業でフィードバックを行う方法や、授業の中に演習を取り入れ、考えてもらう機会を設定するなどの方法が共有された。また、チョークの色について、緑や赤は見えにくいので、見えにくい色に関しては、色覚特性に対応したチョークの導入を全学的に検討する必要があることなども話された。

●第 4 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時：2012 年 7 月 13 日 (金) 14:30~15:50
- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3 階)
- ・授業担当者：Antonio Norio Nakagaito 講師 (大学院ソシオテクノサイエンス研究部)
- ・授業題目：『工業英語 1』
- ・共催：工学部 FD 委員会
- ・内容：この授業では、英語による技術論文の書

き方のポイントについて、英語の資料を用いながら日本語で丁寧に解説をしている。先生が論文を書く際に学んだテキストを参考に、そのポイントを整理して授業が展開されていた。

自由討論では、学生とのコミュニケーションが中心テーマとして話された。日本の学生は、授業の中で意見を求めると、なかなか話してくれない状況（文化）があり、多くの先生から工夫が必要である点が話された。

名前を呼ぶなど直接指名する、マイクを向けるといった学生をあてる工夫や、出てきた答えが間違っているとしても否定するコメントはしない、必ず何か発言するといったルールを決めて順番に話してもらう、ディスカッションをする際は、その基本的な知識と自分の意見のある程度整理してくるよう、話すための予習課題を出すなどの方法が共有された。

●第 5 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時：2012 年 7 月 17 日（火）16：30～17：50
- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3 階）
- ・授業担当者：日下一也 講師（大学院ソシオテクノサイエンス研究部）
- ・授業題目：『機械計測』
- ・共催：工学部 FD 委員会
- ・内容：この授業では、授業の意味・意義を明確に伝え、学ぶ事の大切さを強調した授業をされていた。また、記入式のパワーポイントの資料と板書を併用したり、その回の授業テーマに沿った演習問題の時間を設定したり、詳しく解説するなどの工夫もされていた。

討論では、人数の多い授業で学生の理解度をどのように把握するかというテーマが中心に話された。理解度や感想を学生に答えてもらい、その傾向を把握したり、小テストで理解している所とそうでない所を把握したりしながら、理解が足りない所については、解説の仕方を考えることなどが話された。

また、授業内容が易しければ、理解度は高くなるので、その基準をどこに置くのが重要であることについても意見が出された。どこに基

準を合わせるのか、どこまでを合格とするのかについて様々な意見交換がなされた。

●第 6 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時：2012 年 11 月 20 日（火）10：30～11：50
- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3 階）
- ・授業担当者：服部武文 准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）
- ・授業題目：『生態学Ⅱ』
- ・共催：総合科学部 FD 委員会
- ・内容：この授業では、実物の教材（キノコや丸太）を多用して、学生が本物に触れ、そこから学びの視点を見出していくという方法で授業をされていた。その他にも、バームクーヘンを用いて植物の細胞壁の仕組みの理解を促すとともに、学生の緊張感を和らげる配慮もされていた。また、説明をする際は、教室を移動しながら学生一人一人に近づいて、語りかけるような口調で丁寧に説明をされている。このように、個々の学生を大切にし、学生の興味を引き出しながら、理解と記憶を促すきめ細やかな工夫をされていた。

自由討論では、基礎的な知識を身に付けさせる事は大切だが、より重要なのは、学生があるテーマに対して、疑問を持ったり、何かに気づいたりするというように、問題を発見し、解決する過程を通して理解、探求していくプロセスを重視する事、また、学生の質問やコメントから、個々の学生が何を理解し、どこで躓いているのか、授業をよりよく進める上でのよい質問とは何かを把握していくことが大切であることなどが話された。

●第 7 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時：2012 年 12 月 4 日（火）10：30～11：50
- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3 階）
- ・授業担当者：松浦健二 准教授（情報化推進センター）
- ・授業題目：『情報セキュリティ』
- ・共催：情報化推進センター

- ・内容：この授業では、情報セキュリティの理論と合わせて、実学を重視した授業を進められ、レポートやミニツテストを用いて学生の理解を促す工夫をされている。

自由討論では、学生への課題をどこまで課すのかという話題が上った。学生からきついという意見があったとしても、より良い学びにつながるのであれば、多少きつい課題であってもそれを減らしたり、優しくしたりするのではなく、なんとか乗り越えてほしいという思いが共有された。また、今年度から出席カード管理システムが導入され、それを利用した教員から遅刻者が減ったという意見が上がり、その効果は大きいことも共有された。授業の特性に合わせて、様々なツールを組み合わせ実践を重ねていくことの意義を改めて確認できる会であった。

●第 8 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時：2012 年 12 月 6 日 (木) 13 : 30~14 : 50
- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3 階)
- ・授業担当者：王 冷然 准教授 (大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)
- ・授業題目：『民法入門』
- ・共催：総合科学部 FD 委員会
- ・内容：この授業では、有名な事件を取り上げ、そこから民法の条文や考え方について基礎的な事を学んでいくといったスタイルで、学生の興味・関心を大切に授業を進められている。また、授業の要所で学生に意見を求めたり、よく考えさせるための質問を投げかけて答えてもらうといったような学生・教員間のやり取りも取り入れられ、アクティブな授業をされている。

自由討論では、教員が学生をよく見て授業を進めていくにはどうすればよいか、また、学生が活発に議論するための支援をどのようにすればよいかということが話題に上った。初めての授業をする際は、学生をよく見るための余裕がないが、慣れてくると段々学生を見る余裕も出てくること、また学生同士でペアやグループで意見をまとめてそれを発表させることで、学生もよく考え、意見を活発に出しやすくなること

などが話された。

また、今年度から導入された出席カード管理システムと合わせて、ちょっとした工夫 (例えば、教室のどこに誰が座っているかわかる座席表を授業中に記入してもらい、コミュニケーションカードなどを書いてもらう) をすれば、学生も遅刻や途中退出をせずに授業に参加するようになることなども話された。

●第 9 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時：2012 年 12 月 19 日 (水) 18 : 00~19 : 20
- ・開催場所：第二講義室 (大学開放実践センター1 階)
- ・授業担当者：折戸玲子 講師 (大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)
- ・授業題目：『基礎物理学実験 B』
- ・共催：総合科学部 FD 委員会

・内容：この授業では、前半は講義スタイルで実験手順や注意事項等を説明され、その後実際にノギスやマイクロメーターなどの測定機器を用いた測定を行うという実験中心の授業をされている。学生が間違いやすいポイントについて力を入れて説明され、また実験中も学生の質問に丁寧に対応されていた。

自由討論では、レポートの採点やフィードバックの仕方について、また学生を寝させないで授業に参加させるにはどのように対応すればよいかなどの話題が上った。学生を寝させないための具体的な対応策としては、寝ている学生は欠席にすると伝えたり、集中力が途切れてきた頃に作業や授業に関連する雑談を取り入れたり、プレゼンソフトを利用する際には、遠隔操作のできるポインタを利用して机間巡視しながら講義をすれば学生も寝ることが少なくなるのではないかなどの工夫が共有された。

●第 10 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時：2012 年 12 月 20 日 (木) 13 : 00~14 : 20
- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3 階)
- ・授業担当者：笹尾佳代 准教授 (大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)

- ・授業題目：『歴史と文化』
- ・共催：総合科学部 FD 委員会
- ・内容：この授業では、家族をテーマに、日本の近・現代文学の作品を通して、時代背景や個人と社会とのかかわり方について学ぶ事を重視されている。今回は樋口一葉の「十三夜」を題材に、登場人物の關係に焦点をあてて、作品の中から文章を抜き出し、分析して考察を行うといった作業を取り入れながら、作品をより深く学ぶための工夫をされていた。

自由討論では、学生-教員間のやり取りや学生同士のやり取りをどのように行うべきか、学生の学ぶ意欲を促進するための方策等が話題に上った。双方向のやり取りについては、初年次の場合に話すことに慣れていない学生もいるので、具体的な方法を伝えながら徐々に慣れてもらう必要があること、ワークをしている場合、議論の題材となるような学生の答えをあらかじめ把握しておいて、引き出していくとよいことなどが話された。また、モチベーションを促進するために、興味を失っている原因を把握して対応していくことの必要性などが共有された。

- 第 11 回授業コンサルテーション・授業研究会
- ・日時：2013 年 1 月 23 日 (水) 8:30~9:50
- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3 階)
- ・授業担当者：志内哲也 准教授 (大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)
- ・授業題目：『生体の統合機能』
- ・共催：医学部 FD 委員会
- ・内容：この授業では、生物学的な見地から「情動・ストレス」に関連した授業をされている。学生の理解を促すための工夫として、学生に出席カードへ質問を書いてもらい、次の授業で質問に対して答えるといった工夫をされていた。また、研究紹介を行うなど、知的活動を刺激する機会も設けており、学生の教養を高めるための工夫もされている。

自由討論では、授業のレベルをどこに設定するのかということが話題に上った。学士力の何を重視するのか、目標設定をどのように定める

のか、学生の理解度を把握しながら、教員の考えによって設定し、授業設計をしていくこと、勉強するためには少し難しい方がよいという学生もいるので、少々難しくても研究に触れさせ、理解を促すための視点を提供すること、予習・復習の機会を設けて学びを深めたり、知識を広げたりする機会があってもよいのではないか、などの多くの意見が共有された。また、学生がより集中するように、出席表を用いて誰がどこにいるのかを把握し、寝ている学生は欠席にすると伝える方法や、遠隔ポインタを用いて机間巡視をしながら講義を行うなどの方法も共有された。

- 第 12 回授業コンサルテーション・授業研究会
- ・日時：2013 年 1 月 24 日 (木) 16:30~17:50
- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ (大学開放実践センター3 階)
- ・授業担当者：阪間 稔 准教授 (大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)
- ・授業題目：『核医学計測学』
- ・共催：医学部 FD 委員会
- ・内容：この授業では、教科書や必要資料と共に、主任者や国家試験の問題を使って、「放射線検出器」に関する基礎原理や構造、応用面について分かりやすく丁寧な授業をされている。

自由討論では、講義の際に学生が寝ないで集中するためにはどうすればよいかという話題が出た。先生の経験談や学生に興味がありそうなトピックなど、雑談を取り入れながら、なるべく学生の興味を引き付けること、出席表を用いて誰がどこにいるのかを把握し、寝ている学生は欠席にすると伝えること、なるべく机間巡視を行う、ちょっとした質問を投げかける、などの方法が共有された。また、レポートのコピーの問題をどうするかについても話題に上った。電子化することで、コピーがしやすくなるが、あえて電子文書で提出してもらう事で、インターネットからのコピーをチェックするソフトを用いたり、過去に提出されたレポートに検索をかけたりすることで、コピーした個所が分かるようになるといった方法が共有された。



●第 13 回授業コンサルテーション・授業研究会

- ・日時：2013 年 3 月 1 日 (金) 18:15~19:35
- ・開催場所：栄養学棟 204 (蔵本キャンパス)
- ・授業担当者：馬渡一諭 講師 (大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)
- ・授業題目：『環境栄養衛生学概論』
- ・共催：医学部 FD 委員会
- ・内容：当日は、馬渡先生の授業映像を一部視聴し、馬渡先生の解説や大学開放実践センター高等教育支援研究開発部門教員のコメントを交え、自由討論を行った。

先生の授業では、大学院生を対象とした授業であり、論文を理解するための基盤となる事柄について解説した後、論文を用いた説明に加え、質疑応答の時間を多く設定して進められている。

自由討論では、大学院の授業の特徴として、高度な知識を得て、研究の意義や新たな知見を学ぶ機会であると共に、創造性を引き出す事の重要性が話題にのぼった。論文を授業に取り入れることで、学生がよりクリエイティブにアイデアを出せるような利用の仕方、疑問や興味を持ってもらえるように授業を工夫していくことが大切であることも共有された。

5. FD・SD セミナー

FD・SD セミナーは日常的な教育活動の中ですぐに役立つ知識、スキルを参加者間で共有すること、また教育・学生支援に関するテーマについてディスカッションを行うことを目的に開催している。会場は、いずれも大学開放実践センター3 階の授業研究インテリジェントラボ、大学開放実践センター2 階の 6-201 教室を使用し、徳島大学の教職員、学生だけでなく、SPOD 加盟校の教職員も対象にして実施した。また、遠隔会議システムを用いて学外への配信を行い、参加を募集した。

●第 1 回 FD・SD セミナー (参加者：30 名)

- ・日時：2012 年 5 月 18 日 (金) 16:30~18:00
- ・テーマ：徳島大学全学 FD の在り方~全学 FD への提案~
- ・話題提供者：川野卓二 教授 (徳島大学大学開放実践センター)、吉田 博 助教 (徳島大学大

学開放実践センター)

- ・内容：今年、全学 FD 推進プログラムはスタートして 11 年目を迎える。そこで、参加者と全学 FD の今後の展望について、ディスカッションを行い、検討課題等を明らかにすることを目的に開催した。本セミナーでは、全学 FD に参加している教員だけでなく、学長、教育担当理事の先生、FD 専門委員の先生、教育支援課職員、学生からの参加もあり、さまざまな立場の参加者が集まった。はじめに川野教授より徳島大学全学 FD 推進プログラムについて、目的、活動内容、今後の展望等について紹介があった。続いて、ディスカッションの論点を提示し、整理が行われた。まず、吉田助教より、全学 FD 実施組織である高等教育研究開発支援部門において検討すべき内容として 4 つの論点を提示し、参加者からも 6 つの論点が提示された。これら 10 の論点を関連する内容ごとにまとめ、参加者はそれぞれが議論したい論点を選択した。この結果、最終的に以下の 5 つの論点についてディスカッションを行うこととなった。議論された論点は「①FD の効果検証の方法とは!?', 「②FD への参加者を拡大するための対策とは!?', 「③職員と共に進める FD とは!?', 「④教員と学生間のコミュニケーションを促進する FD とは!?', 「⑤良い授業とは何かについて全学 FD として取り組めることとは!?'」である。以上の論点ごとに参加者はグループを作り、グループ内でディスカッションを行い、いくつかのアイデア、及び検討事項がまとめられた。最後に、論点ごとにまとめた内容を参加者が発表し、全体共有が行われた。今回明らかにされた内容は整理して、部門として継続的に議論することが必要である。さらに、今回のようにさまざまな立場の参加者とディスカッションを行う場を設定していくことの必要性も明らかとなった。

●第 2 回 FD・SD セミナー (参加者：22 名)

- ・日時：2012 年 6 月 15 日 (金) 16:30~18:30
- ・テーマ：効果的なグループワークの技法
- ・話題提供者：俣野秀典 講師 (高知大学総合教

育センター)

- ・内容：今回は、遠隔会議システムを利用して、徳島文理大学徳島キャンパス、徳島文理大学香川キャンパスの 2 地点にもセミナーを配信して実施した。

授業の中で効果的にグループワークを取り入れるためのコツについて、学習理論に基づく説明と、参加者が実際にグループワークを体験する形式で行われた。はじめにアイスブレイクの事例がいくつか紹介され、実際に参加者はアイスブレイクのワークを体験した。アイスブレイクは、グループ学習を行うために学生同士の緊張を解し、これから行う学習の動機付けのために重要なワークである。続いて、協同教育、協同学習に関する理論、実際の授業の中で協同学習を取り入れる技法の説明があった。ここでは、協同学習における学生同士の学び合いや、学生が能動的に関わることによる教育的効果の説明も行われた。配布資料にはさまざまな手法が掲載されており、参加者にとっては、自身の授業の中でグループワークを取り入れるためのコツを持ち帰ることができたと考えられる。

●第 3 回 FD・SD セミナー (参加者：58 名)

- ・日時：2012 年 11 月 30 日 (金) 16:30~18:00
- ・テーマ：図書館を利用した学習支援
- ・話題提供者：長澤多代 准教授 (三重大学附属図書館研究開発室)、佐々木奈三江 係長 (徳島大学附属図書館利用支援係)
- ・内容：今回は、遠隔会議システムを利用して、高知大学朝倉キャンパス、高知大学物部キャンパス、高松大学、弓削商船高等専門学校の 4 地点にもセミナーを配信して実施した。

はじめに長澤准教授より、近年の大学教育において、アクティブ・ラーニングの導入、初年次教育、教育の質保証などが強く叫ばれている背景について説明があった。続いて、図書館が学生の学習において果たす役割や、図書館員と教員が連携を取り実施している授業やセミナーについての事例が紹介された。続いて、佐々木利用支援係長からは、近年注目を集めているラーニング・コモンズについての説明と、徳島大学

附属図書館に設置されたラーニング・コモンズについての紹介があった。また、徳島大学のラーニング・コモンズを実質化させるために現在行われている取り組みの紹介がなされた。最後に、4 人程度で教員、職員、学生との混成グループを作り、図書館の有効的な活用法について話し合うワークを行った。本セミナーには、遠隔地も含め図書館職員の方の参加が多く、今後の学生の学習支援において図書館は一翼を担うことになると考えられる。

●第 4 回 FD・SD セミナー (参加者：18 名)

- ・日時：2013 年 2 月 8 日 (金) 16:30~18:00
- ・テーマ：学生の学びを促すための取り組みとその背後にある教育観
- ・話題提供者：齋藤隆仁 准教授 (大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)、水谷康弘 講師 (大学院ソシオテクノサイエンス研究部)
- ・内容：今回は学生の学びを促すためのさまざまな取り組みと、その取り組みの背後にある教育観に焦点を当て、2 名の先生に話題提供をして頂き、その後参加者間でのディスカッションを実施した。

はじめに齋藤准教授より共通教育科目において、学生の主体的な学びを促進するために地域の社会人が授業に参画する「学びのコミュニティー」の取り組みについての紹介があった。授業に社会人が入ることで、学生と教員の 2 者間だけでは実現しない状況が生まれる。例えば、教員が学ぶ立場の存在になる時や、社会人が学生の意見により添い、学生が発言しやすい雰囲気を作り出すこともある。齋藤准教授は、「価値観の違いを乗り越える」ことや、「コミュニケーションを通して新しい気づきや理解が生まれること」が、学生の主体的な学習を促進すると考えている。次に、水谷講師からは工学部の専門教育科目において、学生の学びを促進させるために心がけていることと、その考えに至る背景の紹介があった。水谷先生は松下幸之助の言葉「ものをつくる前に人をつくれ」という言葉を自身に落とし込み「研究する前に人をつくれ」という精神のもと学生と接している。その教育

観のもと学生の学問に対する興味付けに力を入れており、NHK で放送されているハーバード白熱教室や週刊こどもニュースで使われている手法を取り入れた授業を実施している。しかし、大学は知の殿堂であるという精神も必要であると考えており、5 回に 1 回程度は知識を叩き込むために、黒板にひたすら数式を書き、学生は必至でノートを写すだけの授業を行うような授業を行っている。ただ学生に分かりやすくするだけでなく、興味付けと学生に負荷を与えることのメリハリをつけた授業運営を行っていることが紹介された。

参加者間によるディスカッションでは、ペアによる振り返りと議論を行い、最後に参加者から全体で話したいテーマを挙げてもらい意見交換が行われた。ここで挙げられたテーマは、「学生の内発的動機付けを行うための工夫」、「学生の学力差に対する授業レベルの設定の仕方」などである。本セミナーでは、話題提供者の先生が工夫していることを全体で共有するだけでなく、参加者の先生方からもいくつかのアイデアが出された。次年度の授業設計に参考になる点を持ち帰ることができたのではないだろうか。

## 6. 大学教育カンファレンス in 徳島

- ・会期：2012 年 12 月 26 日 (水) 9 : 00~18 : 00
- ・会場：徳島大学大学開放実践センター
- ・概要と成果：第 4 期全学 FD プログラムの第 2 年目に当たる今年度の教育カンファレンスは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD) の開催行事として昨年に引き続き「大学教育カンファレンス in 徳島」として実施し、徳島県内の他大学・高専からの発表も行われた (表 3)。今回の実施は、これまでの実施日の中で最も早い、後期授業期間中の 12 月に大学開放実践センターを会場として開催した。口頭発表 20 件、ポスター発表 15 件の申込があったが、当日、ポスター発表 1 件のキャンセルがあった。その内、ポスター発表 2 件、口頭発表 2 件は、学外からの発表であった。また、学生を発表筆頭者とする口頭発表が 3 件あった。

今回の特別講演として、筑波大学大学研究セン

ターの金子元久教授による講演が「大学教育改革の課題」と題して行われた。また、昨年度から始まったラウンドテーブル形式による発表が 2 件行われた。1 件は、本学教員が話題提供者となった「学生が主体的に取り組む教育活動を目指して——プロジェクトワーク型活動のすすめ」、もう 1 件は、学外から 2 名の話題提供者 (鳴門教育大学の大石雅章副学長、阿南工業高等専門学校の川畑成之准教授) と、本学の大学開放実践センターの吉田博助教の 3 名の話題提供で「徳島県内の高等教育機関における学生支援の取り組み」というテーマで行われた。さらに、今回は、徳島文理大学の牧裕夫准教授と本学の国際センターの Gehrtz 三隅友子教授によって『教育に関わる人のための「教える・学ぶ・ケアする」ワークショップ』が行われた。今回の参加者は、学外からの参加者 27 名を含む、152 名であった。すべての発表終了後に情報交換会を開催した。

## 7. ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

### a. ねらい

平成 24 年度より、実質的な FD の取り組みを進めるため、「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を開催した。本ワークショップは平成 23 年度より初めて開催され、今年度は 2 回目のワークショップとなる。今年度より大学教育委員会、FD 専門委員会の承認を得て、全学的な位置づけのもとに開催するに至った。

また本ワークショップは、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修の一つとして実施した。

このワークショップの目標は次のとおりである。

- ①個人の教育活動を振り返り、教育理念を再考する
- ②個人の教育活動を振り返り、教育目的を整理する
- ③個人の教育活動を振り返り、教育戦略・方法を整理する
- ④個人の教育活動を振り返り、その成果を整理する
- ⑤個人の教育活動を振り返り、具体的な課題を

表3 平成24年度 全学FD 大学教育カンファレンス in 徳島 プログラム

会期：2012年12月26日(水) 会場：徳島大学大学開放実践センター

8:40~9:00	受付 <大学開放実践センター1階玄関ホール>	
9:00~9:15	学長挨拶 香川 征 <第1講義室> 司会：日置善郎	
9:15~10:15	<b>口頭発表A</b> 座長：前澤博 <第1講義室> A① 9:15~9:30 ■概念理解を深化するためのクリッカー利用 大学院がオア・アーツ・アット・サイエンス 研究部 齊藤隆仁	<b>口頭発表B</b> 座長：田中秀治 <第2講義室> B① 9:15~9:30 ■2012 International Student Conference AMA Creating Opportunities for Active English Learning 総合科学教育部博士前期1年 Victoria Marie Bloyer 他
	A② 9:30~9:45 ■学長裁量バイロット事業：原子力災害環境下における放射線防護教育プロジェクト「ふくしま・とくしま、ともに学ぼう」実施報告と今後の課題 大学院がオア・アーツ・アット・サイエンス 研究部 中山信太郎 他	B② 9:30~9:45 ■国際イノベーション人材育成の試行 産学官連携推進部 嵯峨山和美 他
	A③ 9:45~10:00 ■養護実習における学生の学びの検討—実習記録簿の記述内容の分析から— 大学院がオア・アーツ・アット・サイエンス 研究部 宮崎久美子 他	B③ 9:45~10:00 ■地元企業の中核人材を対象とした産業人材育成講座 産学官連携推進部 兼平重和 他
	A④ 10:00~10:15 ■若手教員を対象とした授業改善支援プログラムの効果と課題—徳島大学全学FD推進プログラムを事例として— 大学開放実践センター 香川順子	B④ 10:00~10:15 ■企業の博士後期課程修了人材の採用に関するアンケート調査—長期インターンシップはドクターの採用を促進するか— 大学院がオア・アーツ・アット・サイエンス 研究部 森本恵美 他
休憩		

10:20~11:05	座長：岩佐孝恵 <第1講義室> A⑤ 10:20~10:35 ■教育改善・学生支援活動に参画する学生の教育的効果 大学開放実践センター 吉田博	座長：山中英生 <第2講義室> B⑤ 10:20~10:35 ■地域連携を踏まえた知財活用創造力創出教育手法の推進 大学院がオア・アーツ・アット・サイエンス 研究部 出口祥啓 他
10:20~11:05	A⑥ 10:35~10:50 ■徳島大学の教育改善・学生支援に与える繋ぎ createのインパクト 工学部電気電子工学科2年 安達道彦 他	B⑥ 10:35~10:50 ■知能情報工学科ソフトウェア実験のキャリアグラム 改正について 大学院がオア・アーツ・アット・サイエンス 研究部 渡辺峻
10:50~11:05	A⑦ 10:50~11:05 ■学生による学生の合宿型能力開発の検証 総合科学部人間文化学科3年 今井早苗 他	B⑦ 10:50~11:05 ■粒度分布測定装置の開発を通じて化学におけるものづくり教育の探求 大学院がオア・アーツ・アット・サイエンス 研究部 外輪健一郎 他
11:05~11:10	休憩	
11:10~12:00	座長：原田健太郎 <第1講義室> A⑧ 11:10~11:25 ■阿南高専におけるコア教育の実践と教育効果 阿南工業高等専門学校 原野晋哉 他	座長：羽地達次 <第2講義室> B⑧ 11:10~11:25 ■化学実験出張講義を通じた高大院連携教育の効果 大学院がオア・アーツ・アット・サイエンス 研究部 南川慶二 他
	A⑨ 11:25~11:40 ■ルーブリック評価を活用した項目特性分析による記述式試験問題の評価 医学部教育支援センター 三笠洋明 他	B⑨ 11:25~11:40 ■生涯学習における10年間の情報技術教育への取り組みならびに成果検証 大学院がオア・アーツ・アット・サイエンス 研究部 石田富士雄 他
	A⑩ 11:40~11:55 ■卒業研究におけるルーブリック評価の試験的導入 徳島文理大学 小林郁典 他	
	休憩	
12:00~13:00	夕食休憩	

**ラウンドテーブルI**

座長：金西詩英

<6-201 講義室>  
10:00~12:00

★学生が主体的に取り組む教育活動を目指して—プロジェクト型活動のすすめ—

1. 学生が企画する国際交流イベント  
大学院がオア・アーツ・アット・サイエンス 研究部 大橋真
2. 継続的自律英語学習を旨とした英語教育  
国際センター 坂田浩
3. 留学生によるプロジェクトワーク  
国際センター Gehrtz 三隅友子
4. 学生からの報告と話し合い  
(発表者未定)



	<p>● 徳島大学「イングリッシュ・サポート・ルーム」：大学生の授業時間以外の英語学習のモチベーションを高める対策について P⑧  <small>全学共通教育センター Diertk Clemens Günther</small></p> <p>● Introduction to Creative Writing for ESL Students P⑨  <small>全学共通教育センター (非常勤講師) Suzanne Kamata</small></p> <p>● 発言事例研究：日本人学生による英語スピーチコンテストの準備を通して P⑩  <small>全学共通教育センター (非常勤講師) Chris Pond</small></p> <p>● Using Popular Culture to Invigorate the EFL Classroom P⑪  <small>全学共通教育センター (非常勤講師) Judith Pringle-Hayauchi</small></p> <p>● ESR's Polite English Course: an Approach to Understanding Language Appropriacy P⑫  <small>全学共通教育センター (非常勤講師) Jeff Patrick</small></p> <p>● 巣立ちプログラムに基づく1・2年次学生を対象としたキャリア教育の実践 P⑬  <small>就職支援センター・キャリア教育推進室 田中徳一 他</small></p> <p>● アカデミック・サポートフォリオ開発ワークショップの試み P⑭  <small>阿南工業高等専門学校 松本高志 他</small></p> <p>● グループワークを活用したキャリア支援授業の検討 P⑮  <small>阿南工業高等専門学校 吉田晋 他</small></p>
18:30~ 20:30	情報交換会 <生協食堂>

13:00~ 14:30	特別講演 司会：川野卓二 <第1講義室>	休 憩	ワークシヨップ 座長：小山晋之 <授業研究インテリジェントラボ>	
14:30~ 14:40	演題：「大学教育改革の課題」 講師：金子元久 先生 (筑波大学大学研究センター教授)	休 憩	ワークシヨップ 座長：日鷹善郎 <第1講義室>	
14:40~ 16:40	★ 徳島県内の高等教育機関における学生支援の取り組み 鳴門教育大学 大石雅章 四国大学生活科学部、学修支援センター 下坂剛 阿南工業高等専門学校機械工学科 川畑成之 徳島大学大学開放実践センター 吉田博	休 憩	ワークシヨップ 座長：川野卓二 <第2講義室>	
16:40~ 16:45	口頭発表C 座長：川野卓二 <第2講義室>	休 憩	口頭発表C 座長：川野卓二 <第2講義室>	
16:45~ 17:00	C① 16:45~17:00 ■ 高校から大学への教育をスムーズに接続するために何をすべきか？：インタビュー調査で見えてきた、徳島大学教員の認識 全学共通教育センター 古屋玲 他	休 憩	口頭発表C 座長：川野卓二 <第2講義室>	
17:00~ 18:00	ポスター発表 座長：岩田貴 <1階ロビー>	休 憩	ポスター発表 座長：岩田貴 <1階ロビー>	
18:00	● 高大連携事業「高校生の大学研究室への体験入学型学習プログラム」実施報告 (第4報) P① 大学院ソフト・アウェア・サイエンス研究部 渡部 他	休 憩	● 福島県白河市の小・中学校の放射能汚染調査と学習会での報告 P② 総合科学教育部 坂口由貴子 他	
17:00~ 18:00	● 大学生による災害・防災ボランティアができる活動について P③ 総合科学教育部 杉野恵 他	休 憩	● 看護基礎教育と新人看護職員研修の連携と今後の課題 P④ 大学院ヘルスバイサイエンス研究部 岩佐幸恵 他	
18:00	● スキルス・ラボを活用した高校生医学体験学習の取り組み P⑤ 大学院ヘルスバイサイエンス研究部 医療教育開発センター 福富美紀 他	休 憩	● 大学院総合科目「知的財産論」の質の向上のための授業改善 P⑥ 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 森本恵美 他	
18:00	● 高校化学実験ティーチングアシスタントを通じた創造的学習と大院連携教育へのフィードバック P⑦ 工学部化学応用工学科 4年 佐藤文彬 他	休 憩	● 大学院総合科目「知的財産論」の質の向上のための授業改善 P⑥ 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 森本恵美 他	

明確にする

⑥参加者同士の関係性をつくる

本ワークショップは、SPOD 開放プログラムであるため、対象者は徳島大学教員を中心に SPOD 加盟校教員も含まれる。プログラム内容は、教員個人が教育活動を振り返り、自身の教育理念、教育目的、戦略、方法、成果、課題などを中心にまとめていくものである。参加教員（メンティー）にメンターが寄り添い、話し合いを重ねながら自身のティーチング・ポートフォリオを3日間かけて作成する。参加者同士で対話を行いながら、自身の教育活動について3日間集中して振り返る作業を行っていくものである。

b. 概要

■開催期日

2013年3月7日（木）～3月9日（土）

■会場

共通教育6号館201（大学開放実践センター2階）

■参加者

今年度の参加者は、教員5名、教員経験のある院生1名（徳島大学5名、SPOD1名）であり、詳細は次の通りである。

【参加者（メンティー）】

氏名	所属	職名
日置善郎	総合科学部	教授
奥田紀久子	医学部	准教授
藤井智恵子	医学部	講師
吉田博	大学開放実践センター	助教
三浦博	全学共通教育センター	非常勤講師
佐々木よし美	愛媛大学大学院	学生

■運営メンバー

運営メンバーは、副学長（教育担当）、大学開放実践センター長（FD 専門委員会委員長）を含め、教員6名、FD マネージャー1名の計7名で運営を行った。

【運営スタッフ】

氏名	所属	職名
北野健一*	大阪府立大学 工業高等専門学校	准教授

高石喜久 副学長

日置善郎 大学開放実践センター センター長

金西計英\* 大学開放実践センター 教授

宮田政徳\* 大学開放実践センター 准教授

香川順子\* 大学開放実践センター 准教授

奈良理恵 学務部教育支援課 FD マネージャー

\*はメンター担当教員

2日間にわたって表4のプログラムを実施した。

c. 成果と課題

プログラム終了直後、参加者6名に事後アンケートを行った。各項目に対し、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」の4段階で評価を行った。

特に参加者全員が「そう思う」と答えた評価の高い項目は、「研修は全体的に満足できるものだった」、「ティーチング・ポートフォリオは自身の教育改善につながった」、「ワークショップは自身のキャリアにとって有意義な内容だった」「教育理念が明確になった」であり、参加者全員にとって、ポートフォリオ作成による教育活動の振り返りが有意義であったことが窺える。

また運営面においても、全員が「そう思う」と答えた評価の高い項目は、「ワークショップはわかりやすい順序ですすすめられた」「メンターからの助言は役に立った」「事務局は手際よく研修を運営していた」であり、全体的に高い評価が得られた。

この他、5名が「そう思う」1名が「どちらかと言えばそう思う」と評価した項目は、「ティーチング・ポートフォリオがどのようなものか理解できた」、「個人的な教育活動について、深く考える事ができた」、「ワークショップの目的は明確に設定されていた」、「ワークショップ会場は快適な環境だった」となっており、先に挙げた評価と同様、その他の項目においても肯定的な評価が得られている。

成果と課題に関連する項目で、先述した項目以外については、次の3つの項目を自由記述として回答を得た。参加者から得られた回答すべてを次にあげる。

表 4 2012 年度 ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

第 1 日 (2013 年 3 月 7 日・木曜日)

時刻	内 容	講師・担当者
11:30-12:00	受付 (共通教育 6 号館 201) *11:50 までに集合	
12:00-12:30	オリエンテーション ・はじめに (副学長よりあいさつ) ・自己紹介 (スタッフ・参加者) ・ティーチング・ポートフォリオとは	香川順子 (進行) 副学長 (教育担当) 高石喜久 北野健一
12:30-14:00	アイスブレイク 昼食 ・初稿へ向けての共通アドバイス ・ミニ・ワーク	北野健一
14:00-15:00	第 1 回個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 14:00-14:30 二人目 14:30-15:00	メンター全員
15:00-17:00	TP 作成作業 (*22:00 初稿提出締切)	
19:00-21:00	情報交換会 (任意参加)	

第 2 日 (2013 年 3 月 8 日・金曜日)

時刻	内 容	講師・担当者
9:00-10:00	TP 作成作業	
10:00-11:00	第 2 回個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 10:00-10:30 二人目 10:30-11:00	メンター全員
11:00-12:00	TP 作成作業	
12:00-13:00	意見交換 昼食 ・第 1 稿に共通するコメントと情報共有 ・第 2 稿をまとめるにあたって	北野健一
13:00-17:00	TP 作成作業 (*22:00 第 2 稿提出締切)	

第 3 日 (2013 年 3 月 9 日・土曜日)

時刻	内 容	講師・担当者
9:00-10:00	TP 作成作業	
10:00-11:00	第 3 回個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 10:00-10:30 二人目 10:30-11:00	メンター全員
11:00-12:00	TP 作成作業	
12:00-13:00	意見交換 昼食 ・第 3 稿をまとめるにあたって ・TP 披露の形式説明 ・より良いメンターになるためには (ワーク)	香川順子 (進行) 北野健一
13:00-14:00	TP 作成作業 (*22:00 第 3 稿提出締切)	
14:00-	プレゼンテーション準備 (A4 1 枚)	
15:00-16:00	TP 披露・修了式 ・メンティーによるプレゼンテーション ・FD 専門委員会委員長挨拶 ・修了証授与 ・ワークショップを振り返って ・記念写真 ・アンケート	香川順子 (進行) FD 専門委員会委員長 日置善郎
		(3/22 完成原稿締切)

(1) ティーチング・ポートフォリオを作成したご感想をお聞かせ下さい。

- ・とても満足。2 日目の PM3 時ごろが一番大変だった。しかし、今は気分が良い。
- ・一つの教育歴に関するストーリーを書き上げるという印象だった。
- ・自分の教育についてまとめることができ良かったです。
- ・大変だったが、ずっと更新していきたいと思えます。
- ・自分の教育活動を反省する上に大へん役立ったと思う。TP はつねに変化（更新）する必要があるとのことなのでこれで完成ということではないと理解している。
- ・自分自身の教育理念の再確認ができたことが最高の成果でした。

(2) ワークショップに参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・自分自身を見つめなおすことが出来た。他の参加者との交流。
- ・明文化されたこと。メンターの先生に支えられたこと。食事にご配慮して下さりありがとうございました。
- ・作成手順がわかった。まとめ方がわかった。
- ・参加する前は期待と不安の両方があったが、メンターが大へん親切だったので勇気づけられ安心して作業を進めることができた。
- ・同じ場を共有することで、意欲が維持できました。ひとりの作業では続かなかったと思います。

(3) ワークショップをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・エビデンスについての扱い（つまり、提出の必要はないということ）を明確にしておもらえたら重要書類を持ち歩く必要はなかったと思います。よろしく。

今回のワークショップは 2 回目であり、運営側の課題は多く残るものの、参加者にとっては大変な作業ではあるが有意義な時間であったようである。特にメンターによるサポートや参加者が一同

に会して作業を進めることによって、ティーチング・ポートフォリオを作成する推進力となっている事が自由記述より読み取れる。今後の大きな課題としては、他のプログラムとの体系的を持たせ、教員個々のより実質的・継続的な授業改善のプロセスを支援する一つのプログラムとして機能させることが課題である。

#### 注

- 1) SPOD とは、四国地区大学教職員能力開発ネットワークのことである。
- 2) T-SPOD とは、SPOD ネットワークのうち、徳島県下のネットワークを指す。
- 3) SoTL(Scholarship of Teaching and Learning)については、次のサイトに紹介されている。  
<http://www.issotl.org/>